

## 令和 4 年度 全国学力・学習状況調査について

### 1 調査について

目的	全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
対象	小学校第 6 学年・中学校第 3 学年（知的固定学級在籍児童・生徒を除く）
教科	小 6：国語、算数、理科、学習に関する質問紙調査 中 3：国語、数学、理科、学習に関する質問紙調査
実施日	令和 4 年 4 月 1 9 日（火）

### 2 学力に関する調査結果について〔平均正答率（％） 全国、東京都ともに公立学校〕

小学校（第 6 学年）			
	豊島区	東京都	全国
国語	71	69	65.6
算数	70	67	63.2
理科	66	65	63.3

中学校（第 3 学年）			
	豊島区	東京都	全国
国語	67	70	69.0
数学	52	54	51.4
理科	49	51	49.3

#### 【参考 令和 3 年度 全国の公立学校の平均正答率（％）】

小学校（第 6 学年）			
	豊島区	東京都	全国
国語	71	68	64.7
算数	76	74	70.2

中学校（第 3 学年）			
	豊島区	東京都	全国
国語	68	67	64.6
数学	61	60	57.2

#### 調査結果の特徴 （ ）内は令和 3 年度の差

##### 〈小学校〉

- 国語は、全国正答率より 5.4 ㊦（6.3 ㊦）、都正答率より 2 ㊦（3 ㊦）正答率を上回った。
- 算数は、全国正答率より 6.8 ㊦（5.8 ㊦）、都正答率より 3 ㊦（2 ㊦）正答率を上回った。
- 理科は、全国正答率より 2.7 ㊦、都正答率より 1 ㊦正答率を上回った。

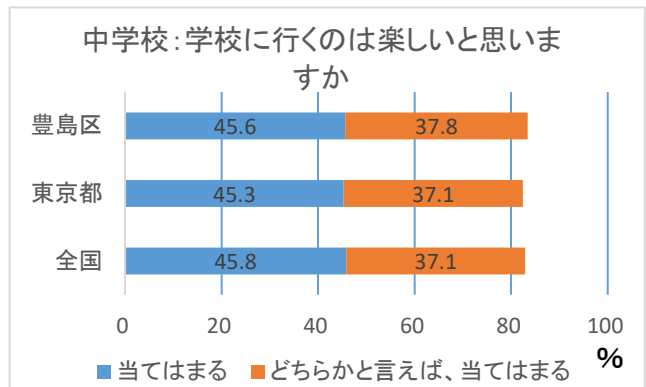
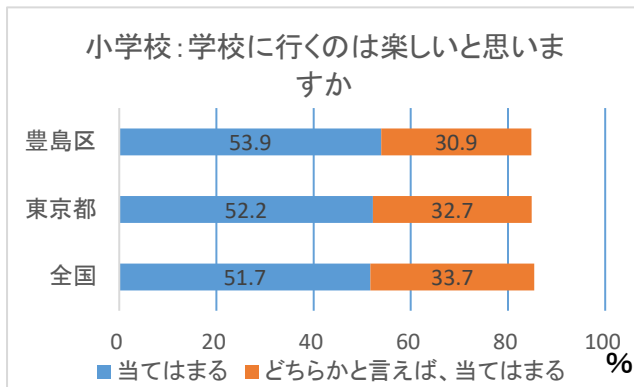
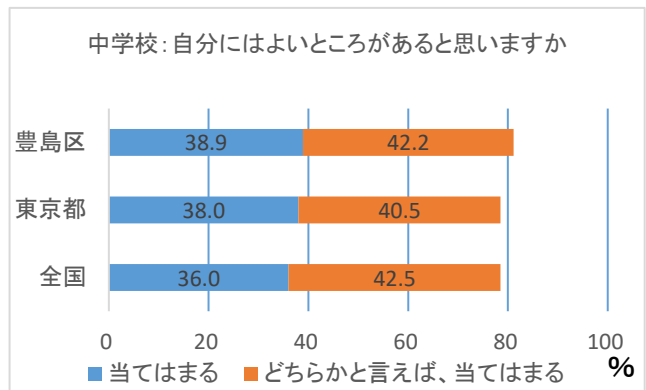
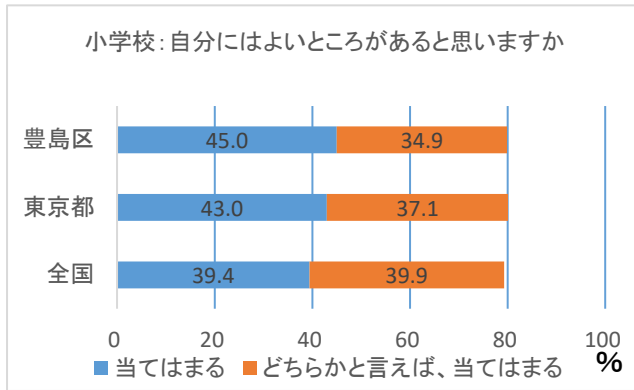
- 国語よりも、算数の正答率が高かった。この傾向は、東京都の傾向と同様である。
- 国語、算数、理科ともに、学習状況は、概ね良好であると考ええる。

##### 〈中学校〉

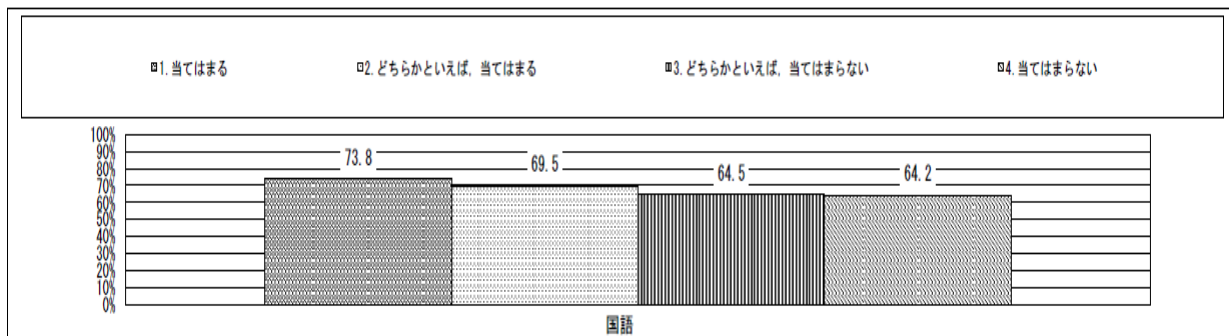
- 国語は、全国正答率より 2.0 ㊦（3.4 ㊦）、都正答率より 3 ㊦（1 ㊦）正答率を下回った。
- 数学は、全国正答率より 0.6 ㊦（3.8 ㊦）上回り、都正答率より 2 ㊦（1 ㊦）正答率を下回った。
- 理科は、全国正答率より 0.3 ㊦、都正答率より 2 ㊦正答率を下回った。
- 国語、数学、理科ともに、都正答率を下回っている。

### 3 児童・生徒質問紙調査結果について

#### (1) 自分自身に関すること



#### 「学校に行くのは楽しい」と国語の正答率の関係(小学校)



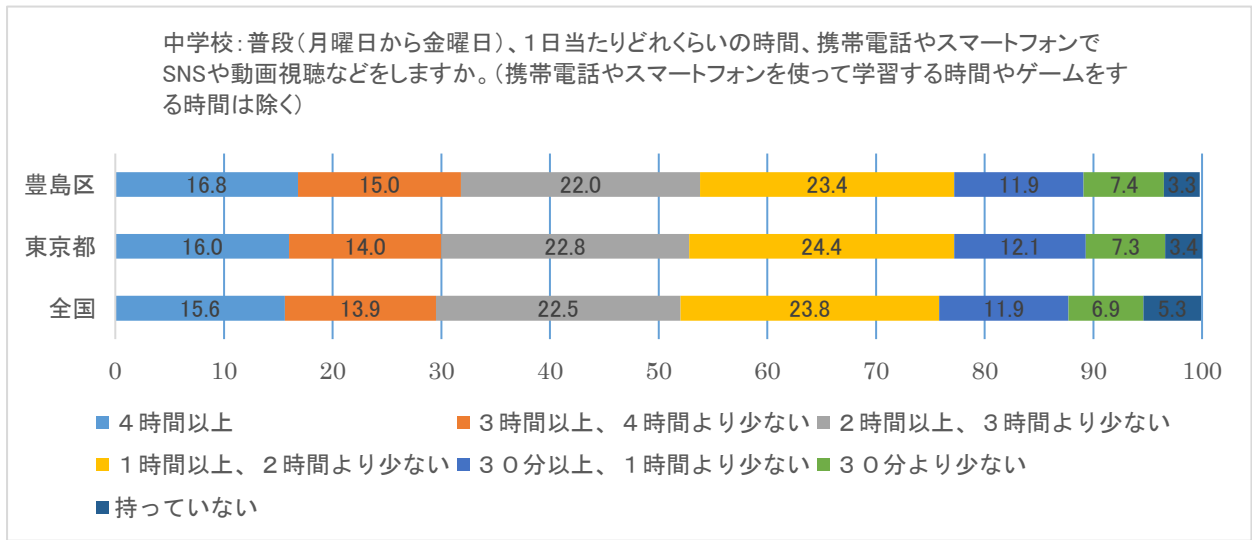
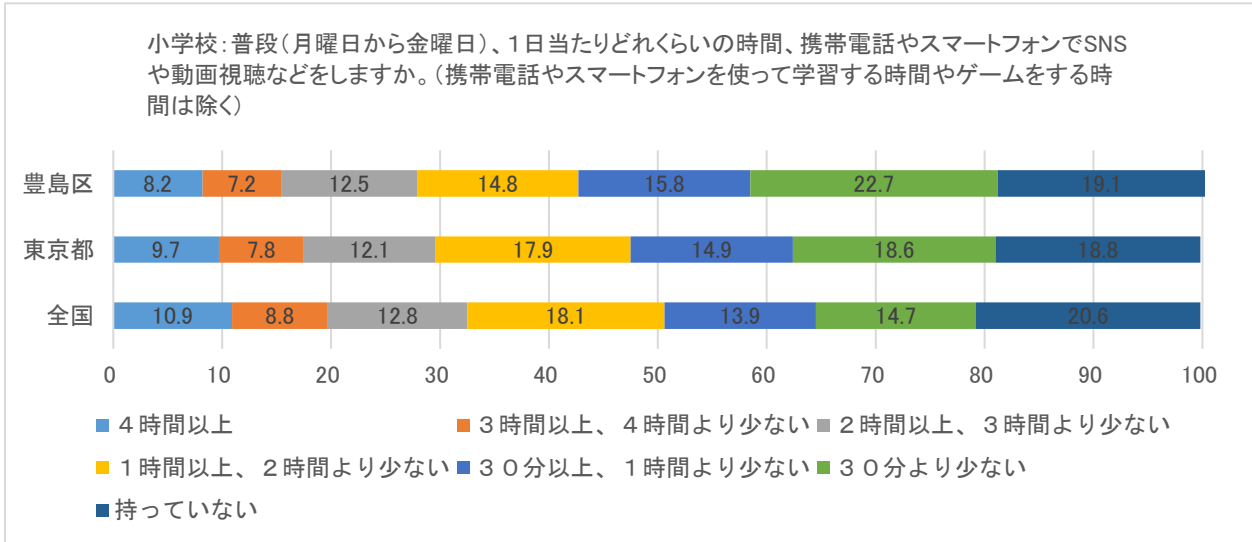
#### 調査結果の特徴

- 「自分にはよいところがあると思いますか」について、肯定的な回答をした児童の割合は79.9%で、全国の前年比を0.6ポイント上回った。また、肯定的な回答をした生徒の割合は81.1%で、全国の前年比を2.6ポイント上回った。小学校・中学校とも、8割の児童生徒が自己に対して肯定的に捉えている。
- 「学校に行くのは楽しいと思いませんか」について、小学校は肯定的な回答の割合84.6%が、全国の前年比85.4%を0.6ポイント下回った。中学校83.4%は全国の前年比82.9%を0.5ポイント上回った。8割以上の児童生徒が肯定的な回答をしている一方、2割弱が否定的な回答をしている。
- 小学校児童「学校に行くのは楽しいと思いませんか」(質問紙)と国語(教科に関する調査)のクロス集計から、学校に行くのが楽しいと思っている児童は、平均正答率が高い。このことは、算数、理科の調査、中学校の国語、数学、理科でも同じ傾向であった。

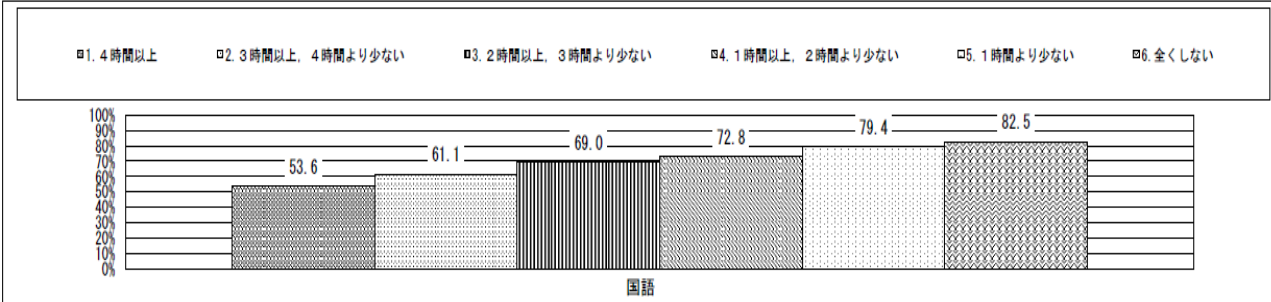
#### <学校への指導>

- ・ 学期始めの教育相談的な取組を確実にし、不安や心配事のある児童生徒に対しては丁寧な聞き取りを行い、心のケアに努める。
- ・ 心理検査の結果分析をもとに、自己肯定感の低い児童生徒に対して、自信をもたせられるような取組や声掛けを日常的に行う。

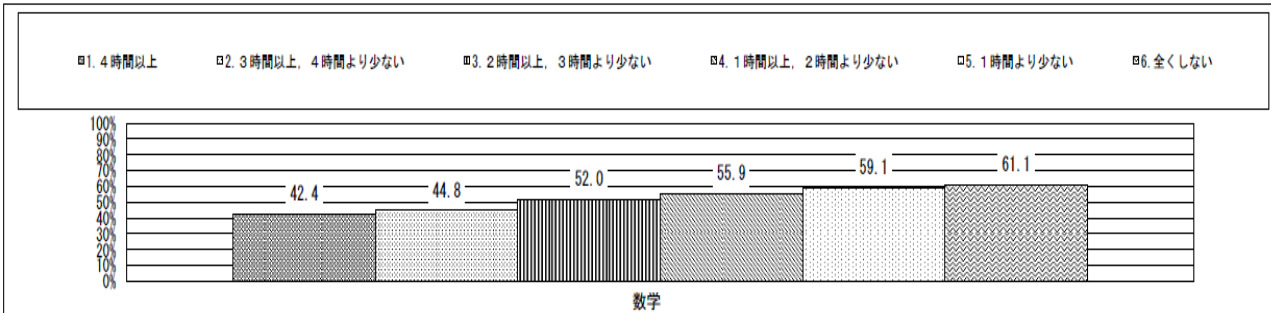
(2) ICT 機器に関すること

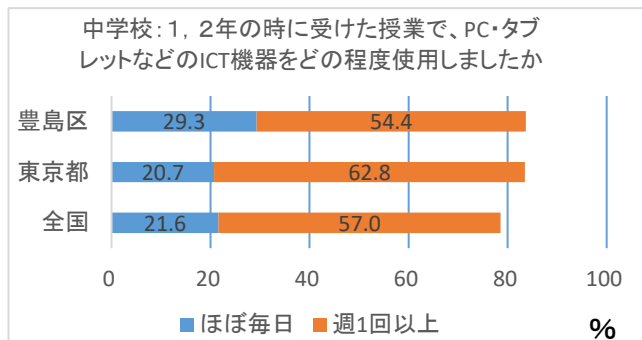
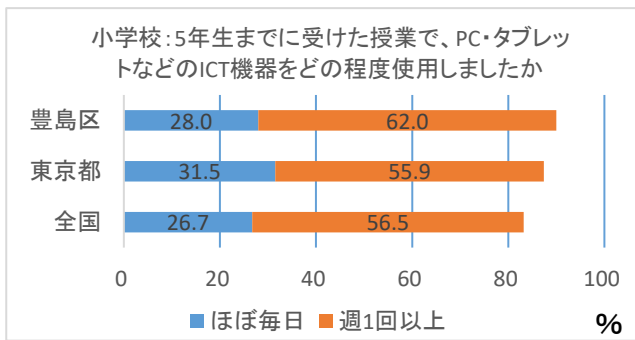


「普段、1日当たりどれくらいの時間携帯電話やスマートフォンで SNS や動画視聴などをするか」と国語の正答率の関係（小学校）

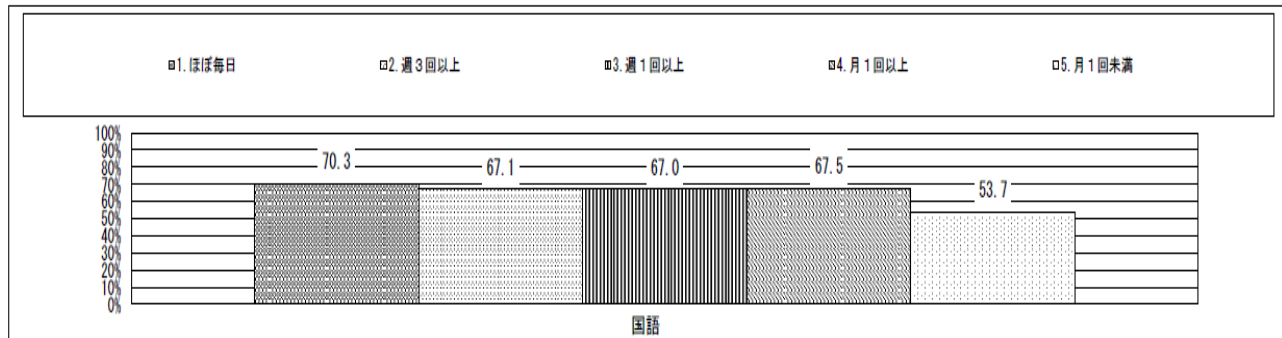


「普段、1日当たりどれくらいの時間携帯電話やスマートフォンで SNS や動画視聴などをするか」と数学の正答率の関係（中学校）





「1・2年生の時に受けた授業で、PC・タブレットをどの程度使用したか」と国語の正答率の関係（中学校）



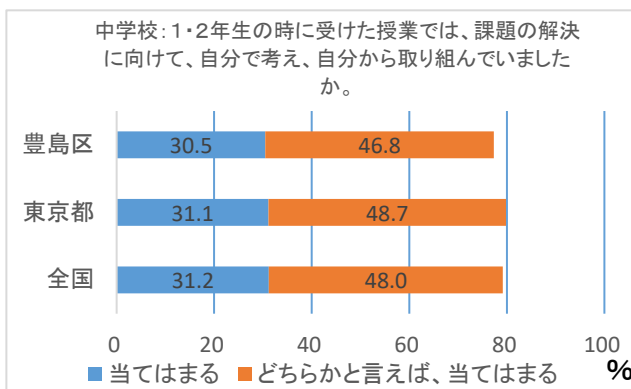
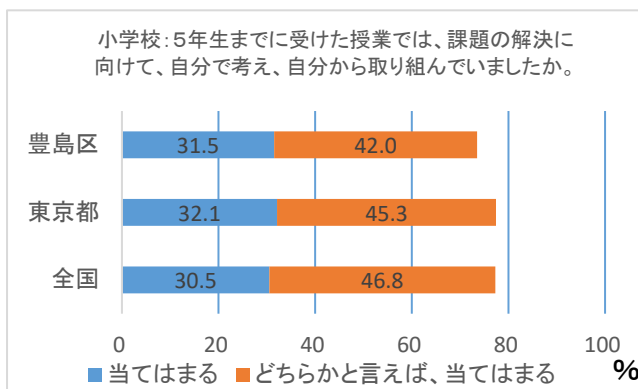
### 調査結果の特徴

- 「普段（月曜日から金曜日まで）、1日当たりどれくらいの時間携帯電話やスマートフォンでSNSや動画視聴などをしますか」の質問で、「4時間以上」「3時間以上4時間より少ない」と回答した割合は、小学校で4.3%、全国平均値を下回り、中学校は2.3%、全国平均値を上回った。
- 「普段（月曜日から金曜日まで）、1日当たりどれくらいの時間携帯電話やスマートフォンでSNSや動画視聴などをしますか」（質問紙）と、国語（教科に関する調査）のクロス集計から、1日当たりのSNSや動画視聴時間が短い児童は、平均正答率が高い。このことは、算数・理科の調査、中学校の国語・数学・理科でも同様であった。
- 「5年生まで（中学校は1・2年生の時）に受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用しましたか」の質問で「ほぼ毎日」「週1回以上」と回答した割合は、小学校で6.8%、中学校は5.1%、全国平均値を上回った。
- 「学校で、学級の友達と意見を交換する場面で、PC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用していますか」の質問で「ほぼ毎日」「週1回以上」と回答した割合は、小学校で11.5%、中学校は1.5%、全国平均値を上回った。
- 中学校生徒「1・2年生の時に受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用しましたか」（質問紙）と、国語（教科に関する調査）のクロス集計から、ICT機器を使用する頻度が高い児童は、平均正答率が高い。このことは、国語・理科の調査、小学校の国語・算数・理科でも同じ傾向であった。

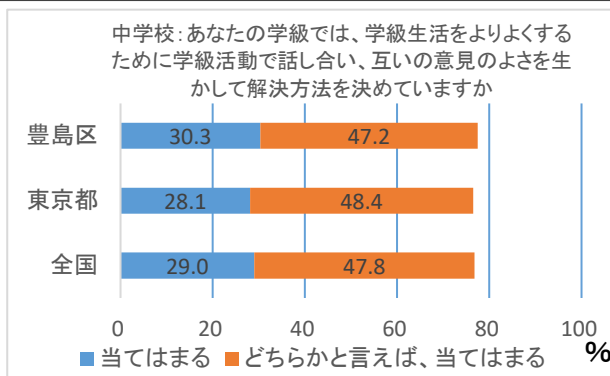
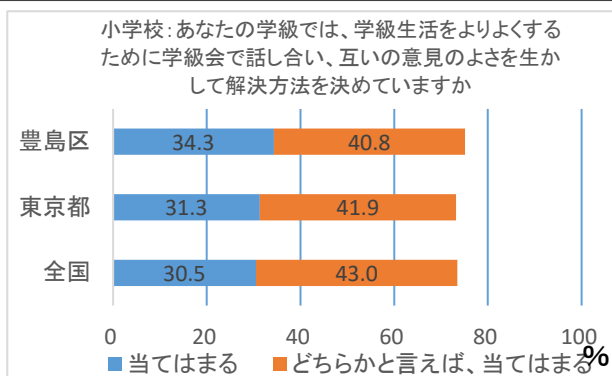
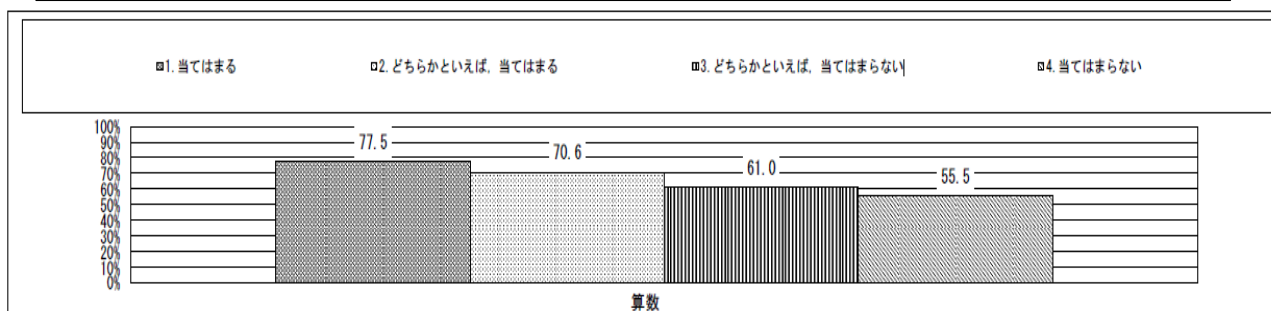
### <学校への指導>

- ・指導課訪問では、児童生徒の主体的な学びを引き出したり、対話的に学んだりするための効果的なICT機器の活用の仕方について、指導・助言を行う。
- ・タブレットミニ研修を行い、どの教員も授業で簡単にできる活用の仕方などを紹介する。

### (3) 学習に関すること



「5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分で取り組んでいたか」と算数の正答率の関係(小学校)



#### 調査結果の特徴

- 「5年生まで(中学校は1・2年生の時)に受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分で取り組んでいましたか」の質問で、肯定的な回答をした児童の割合は73.5%であり、全国平均値を3.8ポイント下回った。肯定的な回答をした生徒の割合は77.3%で全国平均値1.9ポイント下回った。
- 小学校において「5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分で取り組んでいましたか」の質問で、算数(教科に関する調査)のクロス集計から、課題の解決に向けて、自分で考え、自分で取り組んでいた児童は、平均正答率が高い。このことは、国語・理科の調査、中学校の国語、数学、理科でも同じ傾向であった。
- 「あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか」の質問で、肯定的な回答をした児童の割合は75.1%で全国平均値を1.6ポイント上回り、肯定的な回答をした生徒の割合は77.5%で全国平均値を7.0ポイント上回った。

#### <学校への指導>

- ・年次研修、授業力向上研修において「ゴールの姿から逆算した授業づくり」について扱い、単元や1単位時間の目指す児童生徒の姿を明確にして授業を組み立てることについて学ばせる。
- ・学校訪問での授業観察において、児童生徒が課題意識をもち、主体的・対話的に活動に取り組める問題解決型の授業の取組状況について、指導・助言する。